

第104回 薬剤師国家試験問題検討委員会「衛生部会」報告書

日 時 令和元年5月11日(土) 13:30～17:30

令和元年5月31日

場 所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)

出席者

私立大学	56校	94名
国公立大学	16校	20名
計	72校	114名

委員長名	根本 清光
所属大学名	東邦大学

1. 総合評価

出題範囲：衛生薬学全体を網羅しており概ね適切であった。

難易度：必須問題は「平易」、理論および実践問題は一部に難問があったが、概ね適正な難易度であった。単に知識力を問うだけでなく、最近の社会情勢を加味した問題や図表から情報を読み取る形式の問題が多く、しっかりと理解した上で考えさせる工夫された良問が多かった。ただし、特定の選択肢のみで解答できる問題も一部見られた。

整合性：実践問題としての複合性は概ね適切ではあったが、設問文に複合性の観点から気になる問題も一部認められた。昨年度に続き、物理・化学・生物の枠組みとの4連問が出題され、この内容は、より実務との関連性を意識した出題となっている。しかし、このような問題となりうる題材は非常に限られると思われ、そのため細かい知識を問う問題になりかねない。今後、しっかりと検討された上での出題としていただきたい。

2. 各項目の評価

1)「誤りがあると判断された問題」

特になし

2)「問題の観点から不適切である問題」

理論 問132

次亜塩素酸イオンには水道水質基準は設けられていない。よって、選択肢2を正しい記述とすることはできない可能性がある。

実践 問245

学校環境衛生管理マニュアルには、ホルムアルデヒドの検査方法として、選択肢3の方法とともに、これと同等以上の方法によっても行うことが可能となっている。同等以上の方法の例として検知管を用いた測定器が示されている。したがって、選択肢1の「検知管法」も正答となる可能性がある。

3)「問題・選択肢の表現が不適切である問題」

理論 問118

選択肢3に「補酵素」の記述があるが、構造式CであるビタミンCには補酵素型は存在しない。補酵素ではなく補因子あるいはコファクターと表現するべきである。

理論 問120

選択肢4の「テングダケ科」は誤りであり「テングタケ科」とするべきである。

理論 問121

選択肢4に記されているパツリンは、「りんごの搾汁及び搾汁された果汁のみを原料とする清涼飲料水」に基準値が設定されている。よって、「食品中」という表現は正確ではない。

理論 問125

HBsの説明文の「外郭」は「外殻」とすべきである。

理論 問128

選択肢1の「補欠分子」ではなく「補欠分子族」とすべきである。

4)「複合性が不適切である問題」

特になし

5)「授業で教えた内容か」

別紙1のとおり

6)その他特記事項(薬剤師国家試験として高く評価できた問題を含めて)

全体的に、曖昧な表現・表記が散見される。国家試験問題であることから、問題作成(出題)にあたって入念なチェックをしていただきたい。しかし、総合評価でも記したように、単に知識力を問うだけでなく、最近の社会情勢を加味した問題や図表から情報を読み取る形式の問題が多く、しっかりと理解した上で考えさせる、工夫された良問が多かった。

必須 問19

ロコモティブシンドロームは、「運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態」を指し、変形性膝関節症、変形性腰椎症、骨粗しょう症、サルコペニア(加齢性筋肉減少症)などの疾患がその状態に深く関連する。したがって、骨粗しょう症をロコモティブシンドロームの「主な要因」とするのは正確な表現とは言いがたい。また、選択肢2のCOPDには「慢性閉塞性肺疾患」を併記すべきである。さらには、「主な要因」としていながら、「最も適切なものはどれか」とする問題文の表現も適切ではない。

理論 問132

選択肢4の「3種の残留塩素」は、選択肢5と同様、「 HClO 、 ClO^- および NH_2Cl 」を指すのか不明である。適切な表現が必要である。

理論 問133

操作Aによって生じる沈殿は、白色の水酸化マンガン($\text{Mn}(\text{OH})_2$)と褐色の亜マンガン酸(H_2MnO_3)である。よって、選択肢2の沈殿を亜マンガン酸と限定するためには「褐色の沈殿」とする必要がある。

実践 問237

問題文が「選んだ薬物」となっているので、正解とは限定されていない。そのため、問236で何を選ぶかによって解答が変わる(一部解答不能となる)。「前問で選んだ薬物」ではなく、「本治療で用いられる薬物」などとした方が良かったと思われる。今後、「前問で選んだ」ことについて問う問題は、十分に吟味され作問されることをお願いしたい。

実践 問240

選択肢2の「速やか」という表現は曖昧である。

3. 各問題の評価

別紙1のとおり

別紙1 第104 回薬剤師国家試験問題「衛生」部会 評価表

	番号	問題の誤り			問題の適切性			問題・選択肢表現			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
必須問題	16	1	71	0	1	71	0	0	72	0	1	70	1
	17	5	64	3	2	69	1	1	66	5	0	69	3
	18	0	72	0	0	72	0	0	71	0	0	69	3
	19	0	70	2	1	66	5	2	68	2	13	49	10
	20	0	71	0	0	71	0	2	66	3	1	70	0
	21	1	69	0	0	70	0	1	69	0	1	69	0
	22	0	71	0	0	71	0	1	65	5	0	69	2
	23	0	70	0	1	67	1	0	69	1	2	67	1
	24	0	70	0	2	67	1	1	67	2	2	51	17
25	0	70	0	0	70	0	1	69	0	0	68	2	
薬学理論問題	118	0	71	1	0	70	2	3	67	2	0	67	5
	119	0	71	1	1	69	2	0	70	2	2	58	12
	120	0	71	1	0	69	3	2	67	3	0	64	8
	121	0	71	1	1	69	2	4	63	5	0	62	10
	122	1	70	0	0	70	1	1	69	1	0	67	4
	123	0	71	0	1	65	5	1	67	3	4	58	9
	124	0	72	0	0	72	0	2	68	2	0	68	4
	125	0	72	0	0	72	0	3	69	0	0	67	5
	126	0	72	0	1	71	0	0	71	1	1	63	8
	127	0	71	0	0	68	3	1	66	4	0	65	6
	128	0	72	0	0	71	1	3	69	0	0	68	4
	129	0	71	0	0	70	1	0	70	1	0	57	14
	130	0	72	0	0	71	1	0	71	1	0	60	12
	131	0	72	0	0	72	0	2	67	3	0	67	5
	132	0	69	1	1	68	1	4	64	2	0	58	12
133	1	69	0	0	70	0	5	64	1	1	59	10	
134	0	70	0	0	70	0	2	67	1	0	67	3	
135	1	69	0	0	70	0	2	67	1	1	67	2	
136	0	70	0	1	68	1	2	68	0	0	60	10	
140	0	68	3	3	60	8	0	65	6	10	28	33	

	番号	問題の誤り			問題の適切性			問題・選択肢表現			複合性			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
薬学実践問題	227	0	72	0	0	68	4	0	71	1	0	49	23	0	67	5
	228	0	71	1	0	71	1	0	70	2	0	65	7	0	71	1
	231	0	72	0	0	71	1	2	69	1	2	68	2	0	70	2
	233	0	70	1	5	54	12	5	62	4	12	23	36	0	65	6
	234	0	72	0	0	72	0	0	70	2	0	63	9	1	67	4
	237	0	71	0	0	65	6	2	69	0	2	50	19	2	67	2
	238	0	70	1	1	70	0	2	69	0	1	61	9	0	69	2
	240	0	72	0	0	71	1	4	65	3	2	56	14	1	71	0
	242	0	70	0	0	70	0	0	69	1	0	65	5	0	68	2
	245	2	67	1	3	60	7	1	67	2	9	30	31	4	64	2

(注)数字は回答大数字である。